



令和元年七月二十一日、『第十回全日本女子相撲郡上記念大会』で、超軽量級（五〇kg以下）に出席し優勝を果たしました。

さらに、十月に行なわれた『全日本女子相撲選手権大会』でも三位入賞を果たすなど、すばらしい成績を残しました。

上村さんは「競技としての出会いは、小学校三年の時、わんぱく相撲大会に出場し、男子に負けて悔しかったのがきっかけ。北高に入学してからは、先生方や先輩の温かい御指導のおかげで競技を続けてこられ、今回の全国制覇とうすればらしい成果を出すことができました。」と語っていました。

四月からは県内一般企業に勤め社会人として競技生活を続ける一方、県強化選手にもなっており、今後の活躍が期待されています。

上村さんは「競技としての出会いは、小学校三年の時、わんぱく相撲大会に出場し、男子に負けて悔しかったのがきっかけ。北高に入学してからは、先生方や先輩の温かい御指導のおかげで競技を続けてこられ、今回の全国制覇とうすればらしい成果を出すことができました。」と語っていました。

市長は「全国制覇という、快挙は富士宮市にとっても名誉なことです。小さな体でこの快挙を成遂げるには、筆舌に尽しがたい大変な努力があつたと思いますが、今後自身の成長の糧として、将来の夢実現のために頑張つて下さい。又後進の指導にも手腕を發揮していただきことも期待しています。」と挨拶しました。

私は、昨年富士宮市内の高校生が連携して、高校生の視点で地域振興や地方創生、地域ビジネスの手法について学ぶ富士宮高校会議所のメンバーになりました。

残っているのは、先輩達からの発案、活動の積み重ねによって、富士宮市が日本一の生産量を誇る二役所に須藤市長を表敬訪問し、全国大会優勝の報告をしました。

市長は「全国制覇という、快挙は富士宮市にとっても名誉なことです。小さな体でこの快挙を成遂げるには、筆舌に尽しがたい大変な努力があつたと思いますが、今後自身の成長の糧として、将来の夢実現のために頑張つて下さい。又後進の指導にも手腕を發揮していただきことも期待しています。」と挨拶しました。



市長・北高相撲部関係者

